

～ ごあいさつ ～



## 不自由という安心

置賜教育事務所長 迎田 浩昭

今から48年前のこと。私は小学校1・2年生の時、白鷹町立鮎貝小学校黒鴨分校に在籍していました。児童数5・6名だったと記憶しています。先生は、女性の教諭1名のみでした。

分校ですから、施設や設備は人数に見合ったものでした。グラウンドは1周15秒もかからない前庭。跳び箱2台とマット、そして3連の低鉄棒でいっぱい体育館。昼食は弁当。その時に出される、脱脂粉乳の味を堪能していました。

行事や交流学习で月に何回か、片道4キロメートルの道を、3年生以上の上級生と本校に通うのがとても楽しみでした。そこには、1周250メートルのグラウンド、とても大きな滑り台。思いっきりドッジボールができる体育館。階段と2階にまである教室。何と言っても、350食を越える自校給食の香りと味は格別でした。「ここなら好きなこと何でもできるのになあ・・・」と幼心に羨ましさを感じたことを覚えています。

そんな思いを知ってか知らずか、当時の担任の先生は、格別な授業をしてくださいました。理科では、2時間もかけながら学校付近のフィールドワーク。トンボ池の探索や、小川に入っの魚捕り、木の実や食べられる野草の収穫は、今で言えば生活科の学習。夏になれば、川をせき止め水泳練習。そして疲れを癒すため、暗幕をシート代わりに全員で雑魚寝するお昼寝タイム。冬になれば、弁当を背負ってスキーを担ぎ、山路滑降。担任の先生は地域の特性を生かし、郷土愛や仲間意識、そして『安心』を与えてくださいました。

後年、「学校は不自由を学ばせる場だ」と教えていただきました。我慢、自重、そしてきまりを守ること、みんなが安心して勉学に励むことができる。そして、その先にある自由の意義や大切さ、責任を学ぶことができるのだと。当時の先生は、まさしく不自由さを越えて安心を育み、学ぶ楽しさとやりぬく大切さを体得させてくださったのです。

近年、AI（人工知能）とロボットの進化がめざましく、やがて現在の多くの職業が取って代わられるだろうと言われています。ところが、教育だけは残る、と指摘する方がいます。教育は、最も難しい分野の営みだということです。

未来を担う子供達、その成長に関わることができることに誇りを持ち、謙虚に向かいたいと思います。そして、子供達が持っている宝玉に磨きをかけるため、しなやかな思考と判断に関わり、『不自由という安心』を学ぶ体験を積み重ねることが、今求められていると感じます。

